



### ●問3. 見守り活動を行っていく上の困り事

- ・会員の高齢化により、参加者が減少
- ・支援スタッフ自体の高齢化
- ・ほとんどの人が高齢者なので活動を行っていくのが難しい
- ・やってくれる人がいない。自治会役員に任せきり
- ・一人住まいで緊急事態が発生した場の対処方法と本人の意識改革
- ・個人情報という点から本人、周辺から情報が入ってこない
- ・個人情報の問題（プライバシーの侵害）との兼ね合い
- ・個人情報、プライバシーを知られることが嫌な人（個人情報を把握していない人）が救急車に救護を受けた際、意識がしっかりしていなければ問い合わせが役員にくる。
- ・プライバシーの問題などもあり、どの程度、立ち入れるかが難しい。
- ・入院したり施設に入居した場合、連絡の取りようがない方がいる。
- ・地域の見守り活動を利用することに抵抗感を持っている方がいる。
- ・公共サービスを利用しているから・・・と、地域の見守りに目を向けない方がいる。

### ●問4. 見守りについて、今後、取り組んでみたいこと

- ・URや近隣福祉施設等と共同した孤立死防止システムの構築
- ・回覧板を手渡しする
- ・自治会の行事により多くの人に参加してもらい、お互い顔見知りになってもらい、声掛けをしやすい関係を築く。
- ・会員が顔を合わせる機会をできるだけ作る。
- ・出来るだけ高齢者が気楽に集まれるところを作つていただけたら。
- ・月に1度、一人暮らしの方宅に様子見訪問を行つてみる
- ・同じ階の各家の新聞が入っている様子など見ていく事は続けたい。
- ・回覧板等は出来る限り手渡しをする
- ・訪問見守りの実施を検討する
- ・出来る限り回覧板を手渡ししたり、朝夕の散歩時の声かけ
- ・委託介護事業所等との連携により、様々な見守りの可能性を探つてている。
- ・高齢者の送迎システム・給食宅配システムの構築
- ・高齢者が買い物難民にならないように、外部資源の導入を模索。
- ・医療関係者との情報交換を行い、可能ならかかりつけ医を自治会内に浸透させる。
- ・認知症患者を地域全体で見守る体制構築（家族だけで抱えることなく、地域で情報を共有して見守る体制をつくる）

### ●問5. 「みまもりネットワーク事業」を知っている

はい	12
いいえ	5
無回答	0